

第8回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】** 平成30年2月15日（木） 14時55分～16時00分
- 【場 所】** 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】**
1. 当院の概況等について
 2. 看護師の立場から見た地域包括ケアシステム
 3. 自由討議
- 【出席者】**
- 酒向 誠 （医師会／可児医師会長・代理）
伊藤 陽一郎（行政・県／可茂保健所長）
稲原 士郎 （利用者／自治会長）
村瀬 勉 （利用者／自治会副会長）
島岡 孝司 （利用者／自治会副会長・代理）
岸田 喜彦 （院長）
奥村 明人 （事務部長）
福井 是子 （看護部長）

【概 要】

1. 当院の状況等について（パワーポイントを使用し、概要、財務経営状況、患者数について説明）
2. 看護師の立場から見た地域包括ケアシステム（パワーポイントを使用し、現在の状況と取り組みを説明）
3. 自由討議

【利用者】

Q. サロンでは定期的にイベントなども企画している。地域の方々に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

地域包括ケアシステムにおいては介護される方への取り組み、介護を行う方への取り組みの2つがあると実感していますが、病院としてはそのような方々への介護予防の取り組みを行う予定はないでしょうか。

【院長】

A. 病院は基本的に医療を中心に行っています。どちらかというと介護の分野は老健が中心となり、人員の問題もあるためそれぞれの機能を担う体制になっています。また、地域への情報発信については地域包括支援センターが窓口となっています。

【利用者】

Q. 病院は介護予防に向けた取り組みが弱いのではないかと考えています。サロンでは積極的な活動を行っているが、介護予防という観点ではまだまだ不安が多い。自分たちがレベルアップしていくためにも病院がサポートしてほしいと希望しています。

【院長】

A. 特に介護の分野は行政主体で進めていると認識しています。今日は可児市の方が見えないので次回以降に、可児市からの情報も聞いてみたいと思います。

可児市においては医師会の高齢化という問題もあるかと思いますが、そのあたりのご意見について酒向先生はいかがでしょう。

【医師会】

Q. 私も以前は東濃病院に勤めていたことがありましたが、その時は老健や健康管理センターもない時代で、当時の院長も赤字でいろいろと苦勞をされてみえました。しかし、当時は人がどんどん集まってお産や患者数は増えていき、医療がどんどん充実を迫られていきました。今度はその時代の人が高齢化して、介護ケアの不足という問題に繋がっています。ただし、医療やお産を無くしていくわけにはいかないし、介護ケアだけが充実を図ったら、次は再び医療の不足が問題になってくるのではないかと心配しています。今はローズベルや木沢病院しか産婦人科をやっていないため、介護だけでなく産婦人科や小児科の充実も前向きに考えてほしいと期待しています。

【院長】

A. 10年前まではやはり急性期中心の医療でした。また、医者不足で閉鎖していく診療科を復活させることに躍起になっていましたが、徐々にニーズに合わせた体制を維持する考えになってきています。また、お産に関しては可児市の出生率が落ちているため、行政としても産婦人科の充実は急務でないと認識しています。さらに、小児科がなければ新生児を誰が見るかという問題も出てくるため、現実的には難しいと考えていますが、できない、やらないという考えではなく、順序も大切にしながら、希望される医師がいればいつでも再開したいと考えています。

【行政・県】

Q. 県、国の医療計画では急性期病床を大幅に減少させることをうたっていますが、これを見込んで介護分野の充実を目指しているのでしょうか。

【院長】

A. 老健ができた当時には、公的病院で老健を持っている病院はなかったため、なぜ老健を作るのかと思いました。これほど急速に高齢化が進むとは個人的には思ってもいな

かったが、その当時から国の施策は介護を視野に入れたものであったのだと思います。

JCHOに移行する際には組織として、介護を充実させるというスタンスであったため、老健だけでなく地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションの充実を進めています。

【行政・県】

Q. このような情報は地域住民の方はご存知でしょうか。市民公開講座のような情報発信は行っていますか。

【院長】

A. 病院に勤めていると職員ですら、急性期医療中心の視点になっているため、介護に対する情報不足は否めません。まずは職員から知識をつけていかなければならないし、このようなニーズの高まりを地域の方から直接ご意見をいただくのがこの会でも目的でもあると考えています。また、市民公開講座も年1回開催して情報発信しています。

【利用者】

Q. 話をいろいろと聞かせていただいて、自分自身が高齢者となっていく中で他人ごとではないと感じています。委員として年2回参加しているが、1年の任期で交代してしまえば、情報を忘れてしまうことも心配なのでぜひ積極的に病院から情報発信してほしいです。

【院長】

A. 委員でなければ参加できないわけではないので、ぜひ地域の方の意見があればオプザバーとして参加していただきたいです。

【利用者】

Q. 病院の経営状況を拝見したがベッドの稼働率が低いのではないですか。この状況では院長からの厳しい締め付けで職員の方も苦しいのではないのでしょうか。また、全国的にも厳しい医療の状勢をよく聞くが介護保険も大丈夫なのかと心配しています。

【事務部長】

A. 介護保険の収支という情報は病院では分かりかねます。また、実際経営はおっしゃる通り「かつかつ」ですが、職員への締め付けは院長ではなく事務部長の私がやっています。病院としては最低限必要な費用に抑えるよう節約を徹底していますが、病院としての質を落とさないように努力しているので、職員のモチベーションと医療の質については、利用していただいた方にぜひ評価していただければと思います。

【利用者】

Q. 赤字経営が続けば病院が縮小していくのではないかと心配しています。大きくして

いくことが健全とは思わないがやはり収支が最優先事項ではないでしょうか。地域の中心として残ってほしいと期待しているため、収益が少ないことを危惧しています。

【事務部長】

A. 年度途中は投資を抑えて、収支が見えてくる年度末に赤字にならない範囲で整備を行うこともあるため、財務上の収支はいつもぎりぎりの数字になっています。石橋をたたいて渡るとい言葉のように毎月の収支を見ながら必要な設備投資を進めています。

【利用者】

Q. 昨年11月に開催された総合防災訓練について、毎回役員中心に参加させていただいているが、自治会の意識向上に繋がるため、今後もぜひ継続して開催していただき、自治会からも参加させていただきたいです。また、災害時の給水協定もぜひ継続してほしいと考えています。

また、栄町のサロンを月1回最終月の金曜日10時から栄町公民館で開催していますが、駐車場の借用をお願いしたいです。

【院長】

A. 防災訓練は年々レベルアップしていると思っていますが、その労力が大変なのも事実です。ただし病院としては必ず継続していきますので、参加についてはむしろこちらからお願いさせていただきたいと考えています。駐車場の件は申請していただければ問題ないです。

この地域連絡協議会は年2回を予定しております。毎年夏と冬の気候の悪い時期で申し訳ないですが、次回は夏を予定しておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、以上で終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

(終了 16:00)

その他ご意見

【行政・県】

病院の紹介率・逆紹介率について資料および説明を希望された